

令和元年度（平成 31 年度）

重点施策の取り組み内容等と評価

- 第 1 章 学校教育に係る重点施策の取り組み内容と評価（教育総務課、学校給食共同調理場、学校教育課）
P1～P13
- 第 2 章 生涯学習の推進に係る重点施策の取り組み内容と評価（文化生涯学習課）
P14～P25
- 第 3 章 生涯スポーツの推進に係る重点施策の取り組み内容と評価（生涯スポーツ課）
P26～P35

令和 2 年 5 月
長井市教育委員会

第1章 学校教育＝「長井の心」を持ち、たくましく生き抜く子どもを育む学校教育

(1) 生きてはたらく「確かな学力」の育成

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 2020 年度実施の学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、県で推進している「既習の知識や経験をもとに、言語活動を中心にした豊かなかかわり合いの中で、自ら考え判断し表現する活用力をのばす探究型学習」を進める。	○教研式標準学力調査(NRT)知能検査の分析 (2,957 千円) ○校内研・学校研究発表会の実施 ○探究型学習推進プロジェクト事業 (300 千円) ○I C T機器(タブレット、電子黒板等)有効活用方法の研究と実践 ○理科教育振興事業 (1,450 千円) ○授業改善アドバイザー事業 (90 千円) ○1 学級 1 新聞事業の推進	○学校研究発表指定校として、長井南中学校を指定し、研究成果を発表している。 ○モジュール英語活動に ICT 機器を使用し、全普通教室に配備済みの電子黒板の利活用を推進している。 ○NRT・知能検査を活用し、適切な学力把握と、分析による対応を進めている。	○探究型の学習を「単元として取り組む」実践について、長井南中学校が発表を行った。市内全教員が学ぶことができた。 ○NRT の結果をもとに、児童生徒一人ひとりの学習課題や学校ごとに取り組む内容を把握し、丁寧な指導を行うことができた。
② 「学びの基礎づくり事業」として、「百マス計算」「音読」に各小学校で取り組み、基礎基本と集中力を身につけた児童・生徒の育成をめざします。また、一人ひとりを大切にした少人数指導による授業構成を工夫し、日常授業の充実と改善による、わかる・楽しい授業づくりを推進する。	○教育・子育て戦略顧問 陰山英男先生推奨の音読、100 マス計算の推進(学びの基礎づくりモデル校2年目・平野小、豊田小) ○指導主事等派遣事業 ○特別研修会の実施 ○先進校の視察研修の実施	○探究型学習のねらいと手立てを共有し児童生徒の主体的な学びの確立を目指して授業づくりが進められている。 ○指導主事派遣による学校指導に注力し、授業改善が進んでいる。 ○陰山英男先生の直接指導による研修会と先進事例の研修会(福島県郡山市への)参加を実施している。	○2年間にわたる、平野小学校と豊田小学校のモデル校の実践をいかし、市内全小学校に百マス計算・音読の取り組みを広げることができた。 ○陰山英男先生を招聘しての特別研修会において模擬授業を実施し、実際のリズムやテンポ、学習の進め方について学ぶことができ、2学期以後の学習に生かすことができた。
③ 多様な地域人材や、本市出身者団体「ふるさと長井会」等の協力を得ながら、かかわりを大切にした体験活動と自分の良さや生き方について考え、自尊感情を育成する「キャリア教育」を推進する。	○総合的な学習・キャリア教育の充実 ○職場体験活動の充実 ○ふるさと長井会との連携協力事業の推進(推進校：西根小・平野小)	○中学校における体験学習・キャリア教育の充実に向けて取り組みが進んでいる。 ○ふるさと長井会の支援を受けて、鈴木勉氏の講演会を実施することができている。(西根小学校・平野小学校)	○長井市内の「ものづくり」に関わる企業の協力を得て、中学生の地域学習が広がりを見せた。 ○ふるさと長井会の協力により、本年度も2つの小学校(西根小・平野小)でキャリア講演会を行うことができた。

④ モジュール(短時間授業)を活かした外国語活動・外国語の充実や全小・中学校へ配置された ALT の積極的な活用を図っていきます。また、インターネットによるマンツーマン英会話授業の実施と、英語検定 3 級以上の受検料補助の実施により、学習意欲の向上と国際社会に対応できるコミュニケーション能力の育成を推進する。	○外国語指導助手派遣事業 8 名体制 (39,649 千円) ○全小・中学校におけるインターネット回線を活用したマンツーマン英会話学習及び全小学校におけるモジュール学習の実施 ○英語力向上推進事業(英検 3 級以上、英検 IBA) (801 千円)	○各学校の要請に応じ ALT の派遣を行っている。小学校外国語活動、中学校英語科において、ALT を有効に活用した効果的な指導が行われている。 ○マンツーマン英会話学習を中学生にも拡大し、コミュニケーション能力のさらなる向上を目指している。 ○英検 3 級以上の受験者支援を各中学校にて実施している。	○新しく ALT コーディネーターのカリーナ先生を迎え、各 ALT の技量が向上し、それぞれの学校における英語指導も充実した。 ○マンツーマン英会話(小学校 7 回・中学校 3 回)を適切に実施し、必然性のあるコミュニケーション場面を作ることができた。 ○英検 3 級以上の受験者数・生徒数ともに増加している。
⑤ 「長井市教育情報化推進計画」に基づき、全小・中学校に高速無線 LAN 環境を整備し、さらに全学級に電子黒板・書画カメラを配置する ICT 教育の環境整備に努めます。また、電子黒板・タブレット・デジタル教科書等の効果的で円滑な活用のために情報教育推進員を派遣し授業の充実を図る。	○教育用・教職員用コンピューター整備事業 (8,945 千円)・(27,423 千円) ○電子黒板等借上料 (6,925 千円) ○情報教育推進員活用事業(プログラミング教育研究推進校致芳小) (1,285 千円) ○高速無線 LAN 整備(豊田小・北中)	○PC 整備年次計画により、全普通教室に電子黒板・制御用 PC・書画カメラが整備されている。 ○情報教育推進員派遣事業とあわせて、ICT 機器使用に関する教職員研修や利活用に向けた取組が推進されている。	○今年度で、全普通教室に電子黒板と制御用の PC を設置することができ、学習における活用を進めることができた。 ○致芳小学校に、プログラミング教育の先進事例収集研究を委嘱し、成果をまとめることができた。 ○豊田小・北中の無線 LAN 工事も終了し、全小中学校の教室に整備を終了した。

(2) たくましい心と体の育成

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 児童・生徒生活リズム改善事業をもとに、早寝・早起き・朝ご飯等の生活リズムを大切にしたい、たくましい心と体の育成に関する研究・改善を市内全小・中学校で取り組む。	○ながいアクティブキッズプロジェクト事業 (379 千円) ○山形大学・PTA 連合組織等との連携による生活リズム・食育等の改善への取組	○各学校独自の取組と市全体としての HQC シートを基本とした取り組みを行っている。 ○メディア接触時間の減少を重点として、アウトメディアの取り組みを進めている。音読・読み聞かせの事業等との連携も進んでいる。 ○山形大学地域教育文化学科との連携のもと、基礎運動の指導・陸上運動指導等に教授や学生等を派遣いただき、教員の指導力向上と児童生徒の体力・運動能力向上に努めている。	○PTA と連携した、アウトメディアと生活リズム改善の取り組みが進んだ。早寝早起き朝ごはんの習慣化についても効果が上がった。 ○アクティブキッズプロジェクト事業における、基礎運動の指導や陸上運動指導を適切に実施し、児童生徒の体力・運動能力の向上に資することができた。
② 児童・生徒の体力・運動能力を適切に把握し、体育科の授業改善を図り、各学校独自の体力作りや遊び・部活動の工夫・充実等をとおして、楽しみながらもめあてを持ってねばり強く運動に取り組む活動を推進する。	○体力・運動能力・運動習慣等調査の分析と教科体育の充実 ○オリ・パラ大会を意識したスポーツに関する興味関心の高揚及びタンザニア選手団との交流会実施 ○各種体育大会の開催 ○(中)部活動振興事業 (5,989 千円) ○小・中学校各種大会出場費補助事業 (3,500 千円)	○各学校において、体力・運動能力テストを適切に実施し、実態把握と補強の運動に取り組んでいる。 ○タンザニアへの市民訪問団に、中学生が参加することにより、オリパラ行事への取り組み意識の高揚と、興味関心の醸成に資する。 ○各種大会への積極的な参加を促し、競技力の向上に取り組む。	○体力・運動能力テストの結果を学校ごとに調査・分析し、それらをもとにした課題への取り組みを計画的に実施することができた。 ○タンザニアに訪問した中学生 2 名が、TICAD (アフリカ開発会議:8 月 30 日横浜開催) において、大変有意義な体験発表を行った。
③ PTA や外部専門機関との連携のもと、メディア(特にスマートフォンや携帯電話・携帯ゲーム機等を介した SNS など)との正しい付き合い方や使い方を学ぶメディア教育を推進する。	○総合的な学習におけるメディアリテラシーに関する授業の推進 ○学校保健委員会の開催 ○学校保健衛生管理事業(校医による検診等) (10,301 千円) ○道徳の教科化に合わせた道徳教育計画の見直しと実施 (中学校)	○PTA や学校保健委員会などの組織と連携し、SNS や情報通信機器(スマホ)との望ましい付き合い方について学ぶ活動を行う。	○各学校において、長井警察署生活安全課や置賜教育事務所青少年指導担当者と連携した「メディアとの付き合い方に関連した授業」を行うことができた。 ○すべての小中学校で、適切に学校保健委員会が開催された。

(3) 特別支援教育の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 特別な支援を必要とする児童・生徒への支援体制を充実させるため、特別支援教育コーディネーターのリーダーシップのもと、校内組織・支援体制づくり及び研修等を推進する。	○特別支援教育コーディネーターの専門性の向上 ○幼保小等連携専門員派遣事業 (2,238 千円) ○教育支援委員会の開催 ○就学時健診、各種検査の実施	○幼保小等連携専門員派遣事業の実施により、効果的な就学指導に向けて園と小学校の情報交流を進めている。 ○特別な支援を必要とする児童生徒の早期発見と適切な対応について、教員研修や校内組織づくりに積極的に取り組んでいる。	○幼保小等連携専門員による、幼保施設訪問や、個別の課題についての聞き取りにより、適切な就学に向けた情報整理や保護者理解が進んだ。 ○特別支援コーディネータ研修会の実施により、各小中学校における特別支援教育の充実が図られた。
② 特別支援教育の専門家を招聘し、発達障がいに関する理解、特別な支援が必要な児童生徒への指導法を学ぶ研修会を開催し、教職員の特別支援教育力の向上を図る。	○専門家によるスクリーニングの実施と効果的指導の明確化 特別支援教育バックアップ事業 (312 千円) ○特別支援教育研修会の実施	○山形大学三浦光哉教授を中心とする専門家チームにより、全小・中学校においてスクリーニングを実施している。 ○長井市に始めて赴任した教員や、コーディネーターを対象とした研修会を実施している。	○山形大学三浦教授を中心とする専門家チームによるスクリーニングにより、発達に課題のある児童生徒の早期対応や、丁寧な支援を進めることができた。 ○教職員の特別支援に関する理解や指導力が向上してきた。
③ 特別支援教育充実のため、各学校の実態に応じて市単独の学校教育支援員を配置するとともに、日本語指導が必要な外国人や帰国子女に向けた日本語指導の支援を推進する。	○学校教育支援員配置事業 (27,174 千円) ○日本語指導事業 (1,364 千円)	○学校教育支援員として 14 名の配置を行った。SSWC も加えきめ細かな支援ができています。 ○日本語指導の対象児童生徒に対しても時間配分を工夫して対応している。	○各小中学校に配置した学校教育支援員の活躍により、個々の発達に対応したきめ細やかな支援が進められた。 ○日本語指導が必要な児童生徒に対し、保護者や家庭支援も含めて日本文化の指導と生活支援が行えた。

(4) 生徒指導の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 児童・生徒が自主的に判断し積極的に日々の学校生活を送ることができるよう、自尊感情や人間関係形成能力の育成と、自己指導能力の醸成を推進する。	○長井の心推進事業 (890 千円) ○修学旅行販売体験支援事業 (528 千円)	○各学校において、自尊感情の育成と人間関係形成能力の向上を目指した「長井の心」育成推進事業を行っている。 ○東京都大田区との連携を密にし、南北中における「あやめんご活動」「だがしや楽校」を実施している。 ○郷土に伝わる伝統や文化、地域ボランティアなど多彩な活動が引き続き推進されている。	○各小・中学校において、地域と連携した「郷土愛を醸成する学習」や「長井の文化や産業を学ぶ学習」が進められ、地域愛や自尊感情を育成する教育活動への取り組みが進んだ。 ○中学校における総合的な学習、「あやめんご活動・だがしや楽校販売体験」を通して、人間関係形成能力の育成や、郷土を知る活動などが推進された。
② 児童・生徒に対する心のアンケートや無記名での教育相談アンケート、保護者や地域の方々との懇談や情報交換を定期的に行うとともに、hyper-Q Uテストを実施し、いじめや不登校等の未然防止に関する組織的な取り組みを推進する。	○長井市いじめ防止対策基本方針に基づいた各学校の実践 ○いじめ発見調査アンケート・hyper-Q Uテスト(年2回)の実施 (2,170 千円) ○「いじめ・不登校対策担当者等連絡会議」の開催	○3月議会において「いじめ防止対策の推進に関する条例」が可決・成立している。 ○いじめ・不登校の未然防止と早期対応に向けて、スクールカウンセラー事業(県事業)に加え hyper-Q Uテストを有効に活用し実態把握を行っている。	○長井市いじめ防止対策の指針に関する条例を制定し、さらなる未然防止と適切な対応に資する取り組みが推進された。 ○hyper-Q Uテストに移行して2年目となり、教職員の「学級の状態を適切にとらえる力」が向上し、より効果的な学級経営への活用が図られた。
③ 関係機関との情報交換やケース会議等による連携を強化し、生徒指導上の諸問題発生時には、児童・生徒の心情と実態に即した、相談・対応が行える体制を整備・充実させる。	○要保護対策連絡協議会・学校、警察連絡協議会等との連携 ○子どもふれあいサポーター活用事業(県事業) ○スクールカウンセラー派遣事業 (195 千円)	○県費負担のスクールカウンセラー・子どもふれあいサポーター事業を補完する事業として、児童生徒・保護者の相談に活用する。 ○指導主事を中心に、ケース会議や要対協への参加を進める。	○子育て推進課や、福祉部門の担当者・長井警察署生活安全課等との連携がスムーズに行え、家庭的に課題を抱える児童生徒への適切な指導支援が推進された。 ○急遽カウンセリングが必要となる場面に即応でし、児童生徒・保護者の安心感につながる取り組みを推進できた。

④ 不登校、不登校傾向の児童・生徒及び、養育面で問題を抱える家庭への支援に向け、適応指導教室「ほっとなるスクール」の開設、及び市単独の教育相談員やスクールソーシャルワークコーディネーターによる、包括的な支援と教育相談体制を充実させる。	○スクール・ソーシャル・ワークコーディネーター派遣事業 ○教育相談員の配置 (685 千円) ○不登校対策相談員の配置 (1,320 千円)	○ほっとなるスクールへの登録児童生徒や 30 日以上欠席者等へのきめ細やかな対応により、学校への登校や教室への復帰、進路の実現がなされている。 ○SSWC との緊密な連携のもと、課題を抱える家庭への支援を進めることができている。	○ほっとなるスクール登録児童 4 名に加え、各中学校の教育相談室において、学習の補助や教室への復帰に向けた取り組みが実施された。 ○中学 3 年生では、ほとんどの生徒が希望の進路を実現させている。
--	---	---	---

(5) 研修の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 長井市学校教育研修所を中核として、学校研究発表会・県が推進している探究型学習について学ぶ研修・小学校英語教育推進校に学ぶ研修・特別支援教育研修・幼保小や小中学校の連携推進・情報（プログラミング）教育研修等の長井市の教育課題解決をめざした各事業を推進する。	○教員の資質向上をめざす教育マイスター制度（県事業・長井小） ○探究型学習の研究推進校（長井小・南中） ○学校教育研修所の運営（810 千円） ○学校研究発表会の実施 ○「長井の心」育成推進事業研修会（推進校：長井南中） ○特別支援教育研修会の実施 ○情報教育推進員活用事業（プログラミング教育研究推進校致芳）（718 千円）	○音読・百マス計算を取り入れ、長井市の教育課題を明確にした、研修事業を推進している。 ○学習指導力向上に向けた校内研修・いじめ不登校等に対応するための生徒指導力向上研修・特別支援教育力向上や情報教育等それぞれの分野の研修会を実施している。 ○致芳小学校を核としたプログラミング教育の先進的な取り組みを進めている。	○学校教育研修所を核とした教職員の研修事業が充実し、新学習指導要領の実施に向けた、学習指導研修や、いじめ不登校の課題に向けた生徒指導研修、特別支援教育の研修などが計画的に実施された。 ○令和2年度より実施のプログラミング学習に致芳小学校を先進事例収集校として取り組み、その成果を全小学校に広めることができた。
② 指導主事の派遣による授業研究会の実施や西置賜地区現職教育協議会との連携を密にした授業交流、教科及び生活科・総合的な学習・特別の教科道徳・特別活動を含めた領域等の共通実践をととして、校内研究・研修の充実と授業力・指導力と教職員としての専門性の向上に努める。	○教育研修補助事業（80 千円） ○教科研修会の実施	○西置賜地区現職教育協議会との研修事業連携により、教員の教科の専門性向上や、広域研修が可能になっている。今年度も、各教科・領域における活発な研修活動が展開されている。	○西置賜地区現職教育協議会との教科研修連携により、教職員個々の指導力が向上した。 ○指導主事の派遣による授業指導・学校経営への助言により、各小中学校の課題解決に資する取り組みを推進することができた。
③ 平成30年2月に策定された山形県教員「指標」に照らして、教職員の資質向上を図るために効果的・継続的な研修を実施します。また、教職員としての綱紀保持・倫理観とモラルの向上を推進し、『師表』信頼される教師・学校をめざすチェックシート」「体罰等の根絶と再発防止に向けた学校教育活動指針（アクションプラン）」等をもとにした、組織的な研修を実施する。	○教員としてのキャリアステージ全体を見通した研修の実施 ○初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、中長期経験者研修等での指導 ○定期的なチェックシートによる自己評価 ○校内倫理委員会の開催 ○校内研修の実施	○各学校の校内倫理委員会の取組や、服務に関する研修会の実施により、教職員としてのモラル向上と綱紀保持に資する活動を進めている。	○各学校に校内倫理委員会を設置するとともに、職員会議における研修などで綱紀保持・教職員倫理に関する共通理解の時間を設け、モラルの向上と、風通しの良い職員間の人間関係作りを進めることができた。

(6) 地域との連携協力体制づくり

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進をとおり、家庭や地域住民の声に耳を傾け、充実した教育活動の成果をめざす、連携・協力体制づくりを推進・強化する。	○コミュニティ・スクール推進体制構築事業 (660 千円) ○学校運営協議会の開催 ○CSコーディネーター（ディレクター）の配置	○すべての学校で、学校運営協議会制度が導入され、CSディレクターによる情報共有や、研修事業が進められている。 ○コミュニティ・スクール連絡協議会が設置され、市内すべての学校運営協議会の委員長・校長・地域学校協働活動推進員合同の会議が実行されている。	○各小中学校において、学校運営協議会を中心とした「地域と学校とが一体となつて行われる教育活動」が実施された。 ○地域学校協働活動推進員の全校配置を有効に活用するとともに、CSディレクターによる、市内全域の連携による研修と情報共有が進められた。
② 学校便りやホームページ等を通じて、家庭や地域への情報発信を行うとともに、機能する学校評価の取組を推進する。	○学校便りの発行 ○ホームページの更新 ○児童生徒及び教職員、保護者、外部評価による学校評価の実施	○各学校における「学校便り」が定期的に発行され、地域への情報発信・連携強化に役立っている。 ○ホームページも定期的に更新され、適切に情報が提供されている。	○各小中学校ごとに、定期的に学校便りを発行し、地区内配布や回覧等を経て、児童生徒の様子や、教育活動の情報を地域に届けることができた。 ○ICT支援員の力を借りながら、各学校のホームページの更新と情報発信が進められた。
③ 地域の素材を取り入れた学習や、地域に貢献する取組を充実させるとともに、部活動(中学校)に、地域人材を生かした外部コーチや部活動指導員を取り入れ、生徒が地域の方々とふれあう機会を多く取り入れた教育活動を推進する。	○長井の心推進事業 ○地域学校協働本部事業 (生涯学習推進費) ○部活動指導員派遣事業 (672 千円)	○すべての学校で、地域素材を取り入れた活動や地域貢献のボランティア学習等が推進されている。 ○部活動指導員配置事業により、地域との連携に加えて、中学校における「働き方改革」に資する活動が進められている。	○地域学校協働活動推進員を通して地域の協力者を募り、教育活動への支援・補助等をいただいた。 ○今年度より実施となった「部活動支援員派遣事業」により、地域の指導者に部活動支援をしてもらいながら、教員の勤務時間に対する配慮等が進められた。

(7) 食育と学校給食の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の保持増進を図り、自らの食について考える習慣、様々な知識や食を選択する判断力を楽しく身に付かせるよう食育の推進に努めます。	○栄養教諭を中核として、学校と連携し、児童生徒に対する食育指導及び保護者等への食育の啓発の推進 ○調理場から各学校に給食に係るお知らせ、クイズなどの提供 ○調理場だよりの発行 (306 千円)	○児童生徒に対する食育指導(5 回) ○保護者や各種団体等に対する食育に関する講話(4 回) ○行事メニューや旬な食材を取り入れたメニューの提供のほか、伝統食の提供を行った。 ・高橋鯉屋さんによる鯉給食の実施 (各小学 6 年生対象) ○調理場だよりの発行 ・市 H P への掲載 ・食育に関することや学校給食レシピ等を紹介	子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する理解を図るため、児童生徒、保護者に対する講話や調理場だよりの発行など、機会を捉えて指導してきたことによって、「食」の重要性について理解が深まっている。 特に、学校では自分で作る「弁当の日」において、自分で作ることの大変さを知ることにより、作ってくれる人への感謝の心が養われている。
② 米飯給食を中心として主食・副菜・主菜を基本に、多様な食品をバランスよく組み合わせた献立づくりや副食の充実に努めるとともに、児童生徒の生活習慣病の予防や健康増進を図ります。	○米飯給食炊飯代経費負担金 (11,216 千円) ○学校給食費負担金 (4,592 千円) ○栄養管理ソフト保守料 (59 千円) ○アレルギー事故防止のための情報提供	○委炊飯代負担金 9,772,909 円 ○学校給食費負担金 3,917,190 円 ○栄養管理ソフト保守料 58,320 円 ○食物アレルギー対応 ・詳細献立の配布 ・就学時保護者面談 4 人 ・養護教諭部会 2 回参加 ○新メニュー 10 品提供	平成 29 年度から学校給食の充実を図るため、学校給食費負担金として 1 食 10 円を市が負担しているが、平成 31 年度は、給食の基本物資であるご飯、パン、牛乳の価格が値上がりすることが見込まれ、この 1 食 10 円は値上げ分の補填となる状況であった。このため、これまでと同様の給食を提供するために、給食費約 10 円の値上げを行ったことにより、副食の充実が図られ、おいしい給食の提供に繋がった。 令和 2 年度も基本物資の値上げは必至と思われるが、昨年度値上げしたばかりであることから給食費を据え置きで実施する。

③ 地域の特産物を知り、地元 愛着を持つ児童・生徒の育成 に努め、地産地消を推進しま す。	○生産者との連携を図りながら、 地元食材の積極的導入 ○まるごと長井給食負担金 (803 千円) ○レインボー認証栽培米等供給経 費負担金 (646 千円) ○地産地消促進事業費補助金 (1,007 千円) ○米粉利用推進事業費補助金 (22 千円) ○バイキング給食、セレクト給食 等の実施	○地元食材の積極的な導入 ・地産地消率 (23.2%) ○まるごと長井給食 803,000 円 (タンザニア応援給食) 10/23 鮭菜めし、揚げ豆腐、 長井産米沢牛芋煮、 わかめの酢の物、 伊佐沢リンゴ ○レインボープラン認証米等経費 584,523 円 ○地産地消の推進 ・地産地消促進事業費補助金 1,198,040 円 ・米粉利用推進事業費補助金 48,392 円 ○バイキング給食 長井小 6/18 致芳小 7/ 2 西根小 10/28 平野小 9/ 2 豊田小 7/ 1 伊佐沢小 9/30 南 中 9/17 北 中 9/10	生産者と調理場の間に職員(農林 課)を配置していることにより給食 献立の作成にあたり、納入できる地 元食材を調整できるため、地産地消 が図られているが、生産時期や品 質・数量により給食に使用できない こともあった。 タンザニア選手との交流事業に 合わせて、まるごと長井給食を実施 した。長井の給食は、タンザニア選 手に好評であったようである。 県補助金の活用によって、より地 産地消の促進が図られた。地産地消 は、必ずしも安価にならないため、 補助金の継続が望まれる。
④ 学校給食衛生管理基準・大量 調理施設衛生管理マニュアル を遵守し、安全・安心な食材 の確保と給食提供に努め、給 食を休止することがないよう 施設設備の維持管理に努めま す。	○放射性物質検査の実施(217 千円) ○各種衛生検査、害虫駆除等の実 施及び従事職員の衛生管理の徹 底 ○調理等業務委託料 (55,787 千円) ○搬送業務委託料 (4,855 千円) ○搬送車借上料 (2,355 千円) ○施設設備修繕料 (700 千円)	○放射性物質検査(年 12 回)実施 180,635 円 ○食品検査、水質検査を実施 ○調理場関係者の検査を実施 ・検便(24 回) ・ノロウィルス検査(6 回) ○調理師の衛生管理研修を実施 ○調理等業務委託料 55,557,300 円 ○搬送業務委託料 4,452,636 円 ○搬送車借上料 2,332,800 円 ○施設・設備等修繕 565,514 円	放射性物質検査、食品検査、使用 水の水質検査、そして調理従事者の 衛生管理の徹底などにより、常に安 全を確保しながら調理等を行った ことにより、大きな事故もなく給食 提供ができた。 施設・設備の日常点検に努め、適 宜修繕したことによって、給食を休 止することなく提供できた。 配管からの水漏れや自動揚げ物機 の故障など、給食提供が危ぶまれる ような突発的な故障もあったが、早 急に修繕したこと。栄養士と調理従 事者の連携により、調理方法の変更 などにより給食提供ができた。

⑤ 新調理場の整備にあたっては、HACCP の考え方に基づき、安全で安心な給食提供できる施設を基本に、多彩な献立を調理できる設備の導入や食物アレルギー対応など、これまで以上にきめ細かな給食提供ができる施設整備に取り組めます。	○調理場整備等事業 ・ PFI アドバイザリー業務委託料 (14,254 千円) ・ 調理場 PFI 設計モニタリング業務委託料 (4,615 千円)	○PFI アドバイザリー業務委託 14,253,600 円 ・ 6/ 5 提案書受付、入札書開札 ・ 7/ 1 事業者選定審査委員会 事業者決定 ・ 7/12 落札者との基本協定締結 ・ 8/20 長井学校給食サービス設立 ・ 8/23 事業契約締結 ・ 9/27 事業契約 議会可決 ○PFI 設計モニタリング業務委託 4,530,600 円 ・ 10/8 業務委託契約締結 ・ 設計定例会 8 回開催	平成 30 年 11 月から PFI 事業に精通する事業者のアドバイス受けながら、事業者選定に向けて準備を進めてきた。令和元年 7 月に事業者決定、基本協定締結、8 月に事業契約の締結に至った。平成 30 年度から進めてきた事業者募集（入札公告）から事業契約締結まで予定どおり進められた。 設計モニタリングでは、要求水準書、提案書等に基づいて適正かつ確実に設計されているかを確認しながら、基本設計・実施設計を進めてきた。 令和 2 年 3 月から、いよいよ建設工事着工となる。
---	---	--	---

(8) 学校関係施設の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 教育環境の改善並びに学校教育の円滑・安全な実施のために、以下の事業を行います。 ・長井小学校管理棟建設事業 ・小学校耐震補強等事業 ・学校施設管理事業	○長井小管理棟建設工事 (333,999 千円) ・同 工事監理 (5,441 千円) 【繰越予算】 ○長井小体育館天井改修工事 (25,437 千円) ・同 工事監理 (389 千円) ○長井小昇降機改修工事 (37,439 千円)	管理諸室と昇降口を一体とした新管理棟の建設工事と工事監理、並びに外構工事等の実施 ・ RC 造 2 階建+PH 延床面積 1343.79 m² ・ 職員室、校長室、事務室、応接室、会議室、相談室、トイレ、職員更衣室、印刷室等 ○長井小管理棟建設工事 (決算額 333,271 千円) ・ 同 工事監理 (決算額 5,076 千円) 天井改修及び昇降機改修工事は明許繰越（国の平成 30 年度第 2 次補正予算にて国庫補助が内定し、）にて事業を実施 ○長井小体育館天井改修工事 (決算額 24,516 千円) ・ 同 工事監理 (決算額 389 千円) ○長井小昇降機改修工事 (決算額 36,396 千円)	平成 31 年度では、外壁塗装・内装仕上げ工事を行い、夏休み中に引っ越しをし、2 学期始業時から児童の利用を開始した。床全面と天井部分の木質化を図ったことにより温もりと、自然光が入る明るい空間を創出。また、移動がスムーズに行えるように体育館までの 2 階部分に渡り廊下を設けた。仮設管理棟の解体及び外構工事も実施しすべての事業が完了した。 学校施設環境改善交付金制度を活用すべく事業メニューを変更し、第 2 次補正にて国庫補助が内定した。体育館天井下に落下防止ネットを設置、また、老朽化した第 2・3 校舎に設置してある老朽化したエレベーターを更新し、児童・職員の安全を確保することができた。
② 備品の更新や老朽設備の修繕を行います。	○(小)備品購入費 (2,943 千円) 机・椅子、パイプ椅子、プールマット等	児童用机 140 台、児童用椅子 20 脚（長井小、平野小、伊佐沢小）、会議用机 15 台（長井小、平野小）、パイプ椅子 50 脚（長井小）などの購入 (決算額 2,225 千円)	老朽化した備品が更新され、学習環境の改善が図られた。

	○(中)備品購入費 (1,560 千円) 机・椅子、会議用机等	生徒用机 50 台、生徒用椅子 50 脚、会議用机 10 台(南中、北中)、パイプ椅子 40 脚(南中、北中)などの購入(決算額 1,114 千円)	老朽化した備品が更新され、学習環境の改善が図られた。
	○(小)修繕料 (787 千円) プール浄化装置修繕等	消防用設備修繕、堅樋修理(長井小)などの修繕(決算額 557 千円)	消防設備を修繕し、防災対策を講じることができた。また、老朽化した設備が更新され、学校環境の改善が図られた。
	○(中)修繕料 (1,557 千円) トイレブース修理、体育館照明修繕等	消防用設備修繕、非常口鉄扉交換(南中)、体育館照明修繕(北中)、トイレブース修理(南中)、グラウンド外灯支柱(南中)などの修繕(決算額 1,325 千円)	消防設備と非常口鉄扉交換については修繕により、防災対策を講じることができた。 体育館照明、トイレブース、グラウンド外灯支柱については修繕により学習環境の改善が図られた。
	○(小)修繕等工事費 (157 千円) 給湯器設置工事等	理科室給湯器設置(平野小)、可動間仕切りクロス貼替え(伊佐沢小)などの工事(決算額 200 千円)	理科室への給湯器設置により、理科の実験学習環境の改善が図られた。 クロス貼替えについては老朽化した設備が更新され、学校環境の改善が図られた。
	○(中)修繕等工事費 (260 千円) 小便器更新工事等	長井南中学校小便器更新、南北中柔剣道場天井改修などの工事(決算額 39,838 千円) ※南北中柔剣道場天井改修工事は国の令和元年度当初予算による国庫補助を活用	老朽化した設備が更新され、学校環境の改善が図られた。 また、地域の応急避難場所として活用される学校施設の特性を踏まえ、落下する危険性がある南北中柔剣道の天井については学校施設環境改善交付金を活用し、防災対策を講じることができた。

第2章 生涯学習の推進＝生涯学習をとおして人も地域も元気なまち

(1) 家庭・幼児教育の充実 ～ 家庭と地域の教育力向上

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
学校教育サイドの幼、保、小連携や早期国語教育の取り組みに併せ、まちづくり青少年育成市民会議、PTA、コミュニティセンター及び市の関係機関等と連携し、子育て支援と家庭教育力、地域教育力の向上に向けた施策を進めていきます。 ① 学習機会の提供 ② 家庭教育情報の提供 ③ 実践運動の推進	①学習機会の提供 ○家庭教育支援事業 ・ 子育て講座の実施 ・ 幼児共育事業等の実施 (323 千円)	○子育て講座 市内 6 小学校でそれぞれ講師を招き、家庭教育に関する講演会を実施した。	○小学校では就学時健診等に併せて開催することで、保護者に広く参加してもらうことができた。保護者の意識を啓発し、家庭の教育力向上につながった。
		○幼児共育事業 西根・平野児童センター、めぐみ幼稚園等で実施。親子での活動や保護者向けの講演会などを行った。	○保護者の意識を啓発し、家庭の教育力の向上につながった。
	②家庭教育情報の提供 ○家庭教育に関する情報の提供	○家庭教育に関する情報の提供 中央コミュニティセンターが発行する「お茶の間交信」等家庭教育に関する情報について、HPに掲載を行った。	○子育てに悩む親の不安感を和らげることができた。また、地域に情報を発信し、地域の教育力向上に寄与した。
	③実践運動の推進 ○生活リズム改善運動等の実施	○生活リズム改善運動等の実施 幼児期の体力や運動能力の向上、ライフスタイルの改善を目的とした「ながいアクティブキッズプロジェクト」への協力。	○ながいアクティブキッズプロジェクトを通じて、幼児自身が楽しみながら運動能力の向上に取り組むことができた。また、体を動かす機会が増えたことで、早寝早起きや朝食を残さず食べる環境づくりにも良い影響が出ている。

(2) 地域における子育て環境の充実 ～ 地域と学校の連携

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
地域学校協働本部事業など をとおして、地域と学校が パートナーとして相互に連 携・協働する体制を強化し、 子どもたちの郷土愛の醸 成、地域教育力の向上を図 ります。また、学童保育事業 との連携の下、土曜らんど や平日の放課後子ども教室 を推進し、子ども達の居場 所をつくるとともに、子ど も達の生きる力を育みま す。 ① 学校・家庭・地域の連携協働 推進事業	①学校・家庭・地域の連携協働推進 事業 ○地域学校協働本部事業 (10,413 千円) ○放課後子ども教室事業（土曜ら んど事業） (3,008 千円)	○地域学校協働本部事業 市内全小中学校で本事業に取り 組んだ。地域学校協働活動推進員 を中心として、地域住民による伝 統芸能の指導や学習講師、登下校 の見守り、文化祭へも地域講師と して参加していただくなど、積極 的な取組み、連携が図られた。	○地域学校協働活動推進員の配置に より、地域ボランティアの参加が 促され、児童生徒の社会学習の推 進、地域伝統文化の継承等を行う ことで、地域教育力の向上が図ら れた。一方で、地域ボランティアや 協力者の確保が継続するための課 題となっており、新たな人材の発 掘が必要。
		○放課後子ども教室事業（土曜ら んど事業） 地域の指導者が中心となり、放 課後の時間や土日などに各地区の 特徴を生かした体験活動の場を子 ども達に提供することができた。	○放課後や休日の子ども達の居場所 づくり、異学年や地域との交流の 場、様々な体験活動の場として役 割を果たした。地域住民の協力を 得て、子ども達に多様な体験活動 の機会を提供し、子ども達の生き る力を育むことができた。継続に 向けた地域の体制づくりが課題と なっている。
② 地域の子ども会活動	②地域の子ども会活動 ○子ども会育成会連絡協議会事業 補助金 (160 千円)	○子ども会育成会連絡協議会 ジュニアリーダーを対象とし て、研修会を4回実施し、山形県及 び東北地区ジュニアリーダー大会 （夏期2回・冬期1回）への派遣を 行った。また、市内の小中学生を対 象とした子ども会交流ドッジボー ル大会を実施した。	○ふれあい福祉まつりにおけるシミ ュレーションショップの運営など の各種研修会をとおして、ジュニ アリーダーの自立精神の育成が図 られたと評価する。また、ドッジボ ール大会の中で地区内外の子ども と指導者が交流することができ た。

(3) 青少年の健全育成 ～ 次代を拓く青少年の育成

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
青少年の健全な育成を目指し、まちづくり青少年育成市民会議を中核として、青少年の生活習慣改善事業や環境浄化運動、社会貢献活動への参加を推進します。PTA・地域団体と連携し、地域の将来を担う子どもたちの育成を目的とする講演会事業に取り組み、次代を担う青少年の育成に向けて、交流と学習の場を拡大していきます。 ① 青少年健全育成活動の推進 ② 社会参加活動の推進	①青少年健全育成活動の推進 ○青少年健全育成事業委託料 (425 千円) ○青少年育成推進員報酬 (178 千円) ○長井市勤労青少年ホーム等指定管理料 (12,432 千円)	○青少年健全育成事業 全体事業として市内小中学校に通う児童・生徒の保護者、教育関係者対象の「竹下和男氏講演会」の開催、「いじめ・非行をなくそう」標語募集・表彰、「長井の心を育む少年活動発表会」や「少年議会」の開催等に取り組んだ。その他、青少年部会・家庭部会・環境浄化部会に分かれて事業を展開した。	○竹下氏を講師とする講演会を実施し、市内小中学校の弁当の日の取り組みの一層の発展・保護者の意識啓発につながった。市民会議が家庭や地域にどのように働きかけていくべきかを考え、取り組みを通し、次世代を担う青少年の育成について意識を啓発することができた。
		○青少年育成推進員 地域の実情に明るい 9 名の方を推進員として委嘱。黒獅子祭り等での巡回指導、有害図書実態調査、青色防犯パトロールを実施した。	○青色防犯パトロール活動に参加、長井警察署との協力体制を整え、地域防犯活動にも参画し、地域の防犯に貢献できた。
		○勤労青少年ホーム等運営管理 指定管理者によって、各種講座の開催や勤労青少年のサークル活動が行われた。	○勤労青少年福祉法に則り、各種講座の開催、各団体間の交流事業などを実施して活性化を目指しているが、登録団体への加入が伸び悩んでおり、如何に増加させるかが課題である。
	②社会参加活動の推進 ○長井市まちづくり少年議会 ○青少年ボランティアの推進	○長井市まちづくり少年議会 第 5 次総合計画や総合戦略の学習を踏まえ、中・高生の少年議員 14 名が、自分たちが生活する長井市を見つめ直し、様々な分野において提言を行った。	○議会に際して、市政運営や展望等について学習し、地域の将来に目を向ける機会となった、また、市側の当局としても今後のまちづくりをする上での参考となった。

(4) コミュニティセンター及び自治公民館活動の充実～住民主体の地域づくりと生涯学習の推進～

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
地域づくりの基本は、地域住民による住民主導型の地域運営であることを踏まえ、地域づくり計画に基づき、地域づくり事業に取り組むコミュニティセンターに対して地域づくり推進課等と連携して支援します。平成31年度は中央、伊佐沢、豊田の3地区がコミュニティセンターに移行し、市内全地区がコミュニティセンターとしての活動を開始しました。これまでに引き続き、社会教育・生涯学習事業について支援を行います。自治公民館に対しては、ハード・ソフト両面からの支援制度を継続していきます。 ① コミュニティセンターにおける生涯学習事業の充実 ② 自治公民館への支援の充実	②自治公民館への支援の充実 ○自治公民館活性化補助事業費 (1,083 千円) ○自治公民館施設整備補助事業費 (4,056 千円)	○自治公民館活性化補助事業 29 団体 補助額 1,083 千円 ○自治公民館施設整備補助 18 団体 補助額 4,056 千円	○自治公民館施設整備補助金は、多くの自治公民館で老朽化が進み補助の需要が増えている。今年度から、トイレの洋式化・水洗化及びエアコンの設置については 1/2 に補助率を上げ、各館のバリアフリー化の推進につなげることが出来た。また、他工事についても、緊急性・安全性による優先順位を考慮し、18 団体への交付決定を行った。自治公民館活性化事業については、小規模館に対する運営管理事業を継続実施することができた。両事業を実施したことで自治公民館に対するハード、ソフト両面での支援ができた。

(5) 読書活動の推進 ～読書に親しむ環境づくり～

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
指定管理者との連携のもとに、より良い読書環境を提供すると共に、長井市子ども読書活動推進計画にもとづき、読書活動の促進に向けた施策を展開していきます。	①子どもと家庭における読書活動の推進 ○図書館指定管理料(32,646千円)	○図書館指定管理料 指定管理第4期の2年度。民間事業者の創意工夫により、おはなし会、お楽しみ会、図書館まつり、読書感想文コンクールなど様々な活動を実施した。 また、5年目となる「みんなでシネマ」についても、毎月1回の名作映画の上映に常連のお客様が出る程好評を得ている。	○新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新規登録者数及び貸出冊数は昨年度より減少したが、指定管理者の独自事業や図書館職員の取り組みが読書活動の推進に繋がっている。
① 子どもと家庭における読書活動の推進			
② 図書館機能の充実と読書環境の充実	②図書館機能の充実と読書環境の充実 ○図書館協議会委員報酬(72千円) ○図書資料購入費 (3,791千円) ○図書館情報システムアウトソーシング委託料 (1,125千円) ○システム機器・AED借上げ料 (986千円)	○年2回の図書館協議会開催 平成31年度は、図書館協議会委員の改選期となり、新しい委員の顔ぶれで図書館運営や公共複合施設に係る意見をもらった。また、図書・資料購入については、利用者の要望も参考としバランスよい選定を行った。	○指定管理者のアイデアや図書館運営に関する図書館協議会の適格な助言により、利用者の利便性や読書活動にふれあう機会が提供された。また、本協議会には次年度以降、公共複合施設建設に向けた意見をいただくこととしている。
③ 公共複合施設(多機能型図書館)建設に向けて			

(6) 芸術文化活動の振興

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 市民文化会館の機能の充実 指定管理者における自主事業により、芸術文化事業と文化活動の活性化を目指します。	①市民文化会館の機能の充実 ○長井市民文化会館運営審議 (委員報酬 72 千円)	○長井市民文化会館運営審議会 (年 1 回) 9 名の委員により市民文化会館の運営、市民文化会館の大規模改修工事の概要について検討いただいた。	○長井市民文化会館大規模改修工事内容について、報告、意見をいただき、利用者目線からの意見を工事に取り入れていくことができた。
② 芸術文化活動への支援 長井文化協会に対する芸術文化事業委託料や地域おこし協力隊推進事業などを通して、芸術文化活動による地域活性化を目指します。	○芸術文化事業委託料 (1,400 千円)	○芸術文化事業委託 「令和のこころ」をテーマとし「第 58 回長井芸術祭」を 2 日間にわたり開催。長井文化協会に加盟する団体による作品の展示や音楽、公演部門によるテーマに沿った舞台発表があった。	○会場を変更しての開催であり、展示作品数等、規模を縮小した開催となったが、長井文化協会の尽力のもと、市民の芸術文化意識の向上と芸術文化活動への支援に繋がる芸術祭となった。出品者が固定化してきていることから、市民が誰でも気軽に出品、参加できる芸術祭とするかが課題である。
	○県美展長井巡回展開催事業委託料 (940 千円)	○県美展長井巡回展開催事業第 74 回県美展・第 61 回記念こども県展の開催。市民が芸術文化に触れる機会を提供できた。 期間：令和元年 9 月 25 日(水) ～30 日(月) 会場：タスパークホテル コンベンションホール 入場者：H29 2,241 人(一般 793、 学生 642、こども 806) H30 2,270 人(一般 773、 学生 620、こども 877) R1 2,435 人(一般 985、 学生 594、こども 856)	○市民文化会館の改修工事により、会場を変更しての開催であったが、事前に展示方法について検討を重ねたことで効率よく展示作業を行うことができた。実行委員会の組織構成や事務作業の方法を見直して業務の簡素化を図るとともに、入場者数の増加や事業の反省を踏まえた次年度以降の取組みについて検討することができた。

	○置賜文化フォーラム負担金 (173 千円)	○置賜文化フォーラム 置賜地域の住民が文化に親しむ環境づくりを基本に、置賜こども芸術祭をはじめとする様々な文化振興施策を展開。 ○置賜文化フォーラム総会 第 1 回総会 日時：令和元年 5 月 17 日 内容：令和元年度事業実績及び決算報告他 第 2 回総会 日時：令和 2 年 2 月 18 日 内容：R1 事業実績、R1 事業計画、R1 地域文化振興支援事業実施要綱・置賜こども芸術祭運営について ○置賜こども芸術祭 会場：飯豊町町民総合センターあ〜す 実施日：令和元年 11 月 30 日(土) 出演団体：長井市立豊田小学校 演目：豊田少年少女川井獅子踊り	○置賜文化フォーラムによる、置賜こども芸術祭では、豊田小学校の協力を仰ぎながら、観客に「豊田少年少女川井獅子踊り」の魅力を伝えることができた。 ○地域文化振興支援事業に市内団体が採択を受け、文化活動が実施された。今後も市報や市の HP 等で周知を図り、芸術文化等の団体支援に努める。
--	-----------------------------------	---	---

(7) 文化財の保護活用と地域活性化

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 文化財の保存、伝承体制の構築 埋蔵文化財については試掘調査、発掘調査等を実施します。 また伊佐沢の久保ザクラは、マルチング作業、草岡の大明神ザクラは、ケーブリング作業等を実施します。	○長井市文化財調査会	○長井市文化財調査会開催 (年1回) 「成島焼 和久井窯」の保持者認定等に向けた意見交換を実施	○今年度は市指定文化財の保持者認定及び指定範囲の追加について協議の上、教育委員会への答申を行い認定された。
	○市内遺跡発掘調査事業 (国庫補助事業：2,077千円)	○市内遺跡発掘調査事業 民間開発に係る調査が7件、公共工事に係る調査が4件、遺跡台帳整備に係る調査が1件の遺跡調査を実施	○小桜館跡の城主であった片倉氏に所縁のある工藤家の居館であった「工藤家屋敷跡」を遺跡に新規登録し、試掘調査と測量調査を実施した。今後の調査によって、長井の中世期について貴重な成果を得られる可能性がある。
	○長井文化財保護協会事業費補助事業 (400千円)	○長井文化財保護協会事業費補助事業 協会設立30周年の記念式典 ・我が家の宝物展 ・写真で見る長井の歴史と文化的景観 ・設立30周年祝賀会 ・文化財シンポジウム 各分野の講師を招いての研修会や会報作成、来年度事業の計画等の活動を実施	○設立30周年として様々な事業を企画し、多くの人が文化財や歴史的なものに触れる機会となった。 その他の研修等でも、文化財について意欲的に学び、今後の文化財のあり方を考えることに繋がった。

	○草岡の大明神ザクラ樹勢回復保護事業 (国県補助事業：2,161 千円)	○検討会の実施 日時：平成 31 年 4 月 24 日 内容：7 月初旬に実施する樹勢回復・保護事業の内容検討 ○樹勢回復・保護事業 期間：令和元年 7 月 1 日～3 日 内容：H25 年度実施のケーブルリング箇所 の点検・修繕、樹木診断 他	○平成 25 年度に実施したケーブルリング作業について点検し、枝の成長等に合わせて、負担がかからないように張り直すことができた。樹勢には、大きな問題はなく、今後は通常の管理のみとし、所有者及び保存会との連携を取る必要がある。
	○文化財保護事業 (465 千円) ・天然記念物保護事業 (300 千円) ・久保ザクラ保護管理委託料 (165 千円)	○国・県・市指定天然記念物等の保護 ・「カモシカ」 死体処理件数 1 件 ・「チョウセンアカシジミ」 豊田小学校の児童とともに年 2 回 (幼虫・DVD 鑑賞) 観察会を実施 ・「白ツツジ (七兵衛ツツジ)」 文化財調査会員である山田寛爾氏 (樹木医) とともに現地調査を実施	○市内の天然記念物については、所有者・管理者の理解を得ながら、適宜樹木医等の専門家による指示を仰ぎ、文化財保護の取り組みを継続することができた。 ○チョウセンアカシジミは、年々発見が難しくなっており、豊田小学校との観察会を年 3 回から 2 回に減らして実施した。
	・長者屋敷遺跡環境整備業務委託 (400 千円) ・白山森遺跡環境整備業務委託 (100 千円) ・締切堤防環境整備業務委託 (200 千円)	○委託内容等 ・長者屋敷遺跡 4 棟の復元住居の屋根葺替等 ・白山森遺跡 遺跡周辺の雑木刈払い等 ・締切堤防 石積の除草作業等	○年間を通して計画的に環境整備を実施してもらい、景観の保全および史跡の保全に努めることができた。

	○地域おこし協力隊推進事業 (3,882 千円)	○地域おこし協力隊推進事業 建築士という専門性を活かし、文教の杜エリア活性化の検討を行い、文化的景観トークイベントや空き店舗活用策の展示会等を実施した。また、取壊しとなった旧長井駅舎のお別れ企画の開催や記録保存等にも取り組んだ。 芸術文化による地域おこし協力隊員が、H31.4 月で任期終了となった。	○地域おこし協力隊自身の専門やネットワークを活かした様々な事業企画を実施した。文教の杜エリアの活用を行政・市民団体・地域によって検討していくためのけん引役を果たしている。
② 文化的景観保護事業 国の重要文化的景観の選定を受けた「最上川上流域における長井の町場景観」について、国の選定エリア内の今後の整備についての検討と普及啓発のためのワークショップを開催します。 文教の杜ながいにおいては、継続して事業の充実を図りながら、芸術活動による活性化を目指します。	○文化的景観保護事業 (国県補助事業：4,781 千円)	○調査検討委員会の開催 有識者等で構成される調査検討委員会を開催し、整備活用計画の概要や事業項目を検討し協議した。 ○整備活用計画の策定 今後の整備活用方針や具体的事業を掲載した整備活用計画の策定に向けて、素案の作成と関係機関との協議を行った。 ○市民ワークショップの開催 整備計画策定に向けて市民ワークショップを開催。宮地区・小出地区・観光関係者対象の3回を予定していたが、コロナ対策により中止し、宮地区1回のみで開催となった。	○関係機関と協議を行い、整備活用計画の素案を作成し策定に向けての作業を進めることができた。また、重要な構成要素の建造物に対する修繕補助制度を創設し、来年度以降に順次整備事業を進めていく体制を構築した。

	○遺跡保護活用事業補助金 (100 千円) ○企画展開催事業 (202 千円)	○内容等 縄文まつり実行委員会に補助金を交付したが、まつりは台風により中止になった。 企画展として古代の丘をテーマにした写真展「古代の丘ってどんな丘？」を開催し、道の駅来館者へ古代の丘への誘導を図った。 ※R1 入館者数:5,899 人	○まつり本番は、台風の影響により中止となってしまったが、準備を通して地域が長者屋敷遺跡に意識を向けるきっかけとなった。企画展では、道の駅にて古代の丘を紹介することにより、観光客への普及啓発に効果があった。
	○文教の杜指定管理料 (22,278 千円)	○文教の杜ながい指定管理料 指定管理 4 期目の 3 年度目。「丸大に残された漆の器展」や「銅板レリーフの魅力 荒川孝 作品展」等、様々なテーマの展示会を展開するとともに、クロッキー会や草鞋づくり体験等を開催し、文教の杜施設の利用者拡大にも取り組んだ。 ・利用（入館者）数 H29：16,407 人、992,720 円 H30：17,408 人、878,735 円 R 1：15,640 人、742,665 円	○指定管理者の努力により、施設の管理運営が図られている。来館者増加に向け、様々な企画展が開催され工夫が見られた。指定管理 5 期目に向け、さらに市と連携しながら、文教の杜を活用した事業を図ることが必要。
③ 長井市史刊行事業 令和元年度の刊行に向けて、各種資料等の調査や整理、資料集の刊行、市民向け歴史講座等の開催を行います。	③長井市史刊行事業 ○市史編纂事業 (20,288 千円)	○事業実施内容等 通史、各論の各分野で資料及び現地調査を実施。また、市史編纂事業の普及啓蒙の目的から、市内の歴史資料を写真と解説を加え市報に「市史編纂だより」として連載を行ったほか、歴史講座を 2 回開催した。各論第 1 卷(自然地理、建築・都市・環境、石造文化財)を刊行した。	○歴史講座の開催と市史編纂だよりにより編纂事業で得た成果を市民に還元でき、編纂事業の周知にもつながった。各論第 1 卷では、長井の動植物や地理、建築の発展、そして板碑等の市内に残る石造文化財についてまとめることができた。

(8) 文教施設の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 各施設の緊急を要する修繕工事を実施します。また、文化会館については平成 30 年度の実施設計をもとに、2 か年計画で耐震等大規模改修工事を実施します。	① 文化会館関係 (1,056,427 千円) ② 文教の杜関係 (1,516 千円)	○大規模改修工事の実施 ① 市民文化会館関係 ・工事監理業務委託料 (20,427 千円) ・大規模改修工事費 (1,036,000 千円) ②文教の杜関係 ・トイレ呼出設備修繕 (81,648 円) ・火災受信機交換 (614,520 円) ・彫塑館雨漏り調査・修繕 (117,700 円)	○各施設共に老朽化が進み、緊急対応による修繕で対処している。 ① 工事については予定通りに進めることができた。また、外観、内装の配色やホール客席の大きさなど、重要なポイントで施工側と協議し、より良い工事内容にすることができた。 ② 落雷により、トイレ呼出設備及び火災受信機が故障したため、保険を利用し修繕工事を実施した。

第3章 生涯スポーツの推進＝市民ひとりのスポーツを楽しむ元気なまち

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 市民一人ひとりがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむ環境づくりを推進します。 成人の週1回以上のスポーツ実施率を60%程度とし、併せて、成人のスポーツ未実施者(1年間に一度もスポーツをしない人)をゼロに近づけることを目標にします。	○「長井花のまちスポーツクラブ」への支援 (6,000千円)	総合型地域スポーツクラブ「花のまちスポーツクラブ」の支援 ・総合型地域クラブ支援事業補助金 5,700,000円 ・各種スポーツ教室の実施 ・ワンデースポーツフェスタ開催 ・会報の発行	・運営委員会等の機関会議にて情報共有し、次の事業に反映させることで、会員及び利用者を取り入れることができたが、市民及び地域に根付く取り組みが少ないため、認知度を上げていくことが今後の課題となっている。
	○マラソン・駅伝のまち長井の推進 ・全国白つつじマラソン大会 (1,330千円) ・第33回長井マラソン大会 (5,146千円)	・開催日：5月19日 ・実施種目：10km・5km・2km ファミリー・ウォーキング ・委託料：1,330,000円 ・遠来賞：(北)岩手県盛岡市 遠来賞：(南)静岡県藤枝市 ・開催日：10月20日 ・委託料：9,344,000円	・参加者 10km 304人(前年345人) 5km 215人(前年206人) 2km 223人(前年264人) ファミリー 95人(前年106人) フットパス 114人(前年128人) 計 951人(前年1,049人) ・参加者 1,108人(前年887人)
	○長井市夏季総合体育大会 ・体協加盟18協議を開催 (180千円)	((4)②の欄に掲載) ・補助金：180,000円	

	○各種スポーツ大会の実施	第43回壮年ソフトボール大会 開催なし 第53回市民ソフトボール大会 15チーム 第24回市民ペタンク大会 13チーム 第40回市民卓球大会 116人 第23回市民ソフトバレー大会 17チーム 第39回市民なわとび大会 159人 第64回市民スキー大会 中止 第51回長井ロードレース大会 中止	・各種市民大会は各競技団体の協力を得て開催できているが参加者が減少してきていることから再考が必要。 ・市民スキー大会は雪不足のためロードレースは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。
	○スポーツ推進委員の取り組み	・主管事業 市民ソフトバレーボール大会 少年少女なわとび大会 スポーツGOMI拾い in 長井 各地区における普及推進活動 ・市主催事業等への協力	・マラソン大会、駅伝大会など市主催事業への協力や主管事業を実施しながら地域スポーツの振興に積極的に取り組んだ。
② 安全にスポーツ活動をおこなうことができるよう環境整備を図り、豊かな生涯スポーツ社会の実現を目指します。	○スポーツ安全保険等の加入推進	・長井花のまちスポーツクラブを介して団体の加入を推進 ・スポ少各団に対して加入を推進	・スポ少登録団体は全て保険に加入できしており、万が一の怪我等に対応できている。
	○施設の安全点検実施	・施設の安全点検の実施と緊急的かつ優先度の高い施設設備の改修 ・シーズン前の定期点検の実施	・使用後に利用者主体で維持管理等（清掃やゴミ拾い）の実施をしている。 ・施設の改修や備品更新について随時検討していくことが必要。 ・定期的な安全点検を実施し、安全な施設管理を徹底している。
	○体育施設へのAED設置 ・常設 長井市野球場 学習プラザ ・開設時 市民小出プール 道照寺平スキー場	・AEDの配置 ⇒常設：あやめ公園運動広場 テニスコート・陸上競技場 学習プラザ、武道館 ⇒随時：小出プール 道照寺平コミセン ・各種大会時における啓蒙等	・市民大会時に保健師配置や準備運動を励行など安全に十分配慮した大会運営に取り組み、参加者に浸透してきている。

(2) 地域における子どものスポーツ機会の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 学校・地域と連携し、子どもが積極的にスポーツに取り組む意識を育て、幼児期からスポーツに親しむ環境の整備を図ります。	○花スポによる親子スポーツ教室等の開催 ○幼稚園、保育所、児童センター、学童保育へのスポーツ支援	・花のまちスポーツクラブの親子スポーツ教室 キッズフットサル 1回 75名 キッズ逆上がり 2回 26名 ジュニアチャレンジ 16回 135名 キッズダンス 22回 334名	・幼児から小学校低学年を対象とした親子教室を開催し、スポーツ実践の習慣づけを推進している。 ・子供のスポーツ離れの解消、高齢者向け健康教室などの市民ひとり1スポーツの推進のため、引き続き力を入れて取り組む必要がある。
	○学校体育との連携と支援 ・長井市小学校体育振興会への委託 (185千円)	第39回市小学校親善陸上大会 第39回市小学校スキー大会 ⇒少雪のため中止 ・委託料 185,000円	・学校教育における事業精査から陸上大会とスキー大会（アルパ）のみ開催となった。 ・市民大会及び小学校スキー大会ともに参加者が少ないため、開催のあり方の検討が必要である。
② 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の整備を推進します。	・スポーツ少年団活動の充実、支援 (365千円)	・合同入団式 24団 599名 ・指導者・母集団研修会 ・県少年少女交流大会参加 ・認定員養成講習会 ・スポーツ少年団活動振興事業委託料 365,000円	・子どもたちにスポーツ機会を与える場として重要な役割を担っているが年々団員数は減少し、単独での存続が難しくなっている。 ・指導者登録制度が改正されるため説明会を開催し周知した。

(3) 市民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 市民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備を推進します。 また、総合型スポーツクラブの充実に向け支援していきます。	○総合型地域スポーツクラブの育成及び支援	◇バランスボール教室 22回 89名 ◇ピラティス教室 66回 1,224名 ◇60歳からの健康教室 43回 432名 ◇エアロビクス教室 20回 161名 ◇ヨガ教室 42回 612名 ◇かけっこ教室 5回 225名 ◇バドミントン教室 36回 281名 ◇大人ハイキング教室 7回 134名 ◇楽しい山歩き教室 8回 107名 ◇障がい者スポーツ教室 5回 82名 ◇ストレッチポール 22回 138名 ◇花スポワンデーフェスタ 1回 335名 ◇フットサル大会 1回 105名 ◇ルデックウォーク 13回 57名 ◇運動不足解消教室 11回 166名	・会員獲得に向けて継続利用者からの紹介等を活用したほか、各コミュニティセンターや民間事業所向けに募集ポスターやチラシをより多く掲示することができ、参加申込みにつながった。 ・運動不足や運動の苦手の方を取り込むきっかけとなる活動に取り組み、会員の増加につながった。 ・しかしながら、市民及び地域に根付く取り組みがまだまだ少ないため、認知度を上げていくことが今後の課題となっている。 ・会員数：449名（前年：255名）
	○学校体育施設の開放事業	・長井小長井南中長井北中体育施設開放運営委員会 （団体数：38団体） ・致芳小（7団体） 西根小（5団体） 平野小（9団体） 豊田小（6団体） 伊佐沢小（7団体）	・子供から高齢者まで多くの市民に健康づくりの場として利用されていることから継続した取り組みが必要である。
② スポーツを支える（育てる）重要な役割を担うスポーツ指導者の養成や研修を行います。 また生涯スポーツの推進に中心的な存在であるスポーツ推進委員の資質の向上と総合型地域スポーツクラブとの連携を図ります。	○指導者の養成、指導力向上 ・県体育協会負担金（62千円）	○指導者の養成、指導力向上 ・県体育協会負担金 62,000円	・県体育協会と連携した指導者の能力向上を図り、新たな資格取得の指導者につながった。
	○スポーツ推進委員の資質向上 ・委員報酬（640千円） ・県スポーツ推進委員会負担金（40千円）	○スポーツ推進委員の資質向上 ・委員報酬 576,000円 ・県スポーツ推進委員会負担金 36,000円	・各推進委員の個性を活かした取り組みにより各地域で生涯スポーツの普及振興を図ることができた。

(4) 競技スポーツの振興と競技力の向上

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① スポーツ少年団、中学・高校、各競技団体、並びに総合型地域スポーツクラブと連携し、指導者の育成、競技力の向上を図ります。	○一貫指導体制の確立、選手強化費、優秀選手、指導者功績への顕彰 ・市体育協会委託料 (1,100 千円)	・市体育協会を中心とした競技力の向上、一貫指導体制の確立 ・優秀選手、殊勲選手の顕彰及び指導者功績への顕彰の継続実施 ・中学校部活動における、活動の充実と部外指導者の確保と養成 ・各種スポーツ競技力向上事業委託料 1,100,000 円 ・中学校部活動における、活動の充実と部外指導者の確保と養成	・体育協会の役割が非常に重要となり、質の高い指導ができるよう人材の確保及び育成をより一層進めていく。
		・講習会や研修会等の開催による、資質の高い指導者の養成 ・長井市スポーツ振興懇談会 開催日：11 月 30 日（土） 講師：杉本龍勇氏 （法政大学経済学部教授） 参加者数 135 人	・置賜地区スポーツ少年団指導者育成母集団研修会、西置賜地区スポーツ振興懇談会、長井市スポーツ振興懇談会合同の開催による専門的な研修を図った。
② トップ選手の競技を観戦する等により、より高いレベルの競技力を目指す意欲を育てます。	○夏季総合体育大会の開催 (180 千円)	・体育協会加盟団体による開催 陸上競技 6/8、野球 6/9～6/23、 バスケットボール 5/11、 ソフトボール 5/26～8/11、 ソフトテニス中止、バドミントン 7/7、 卓球 5/18、6/22～23、 剣道 6/23、柔道 7/7、 弓道 6/9、ゲートボール 7/22、 トライアスロン 7/14、ペタンク 6/15、 硬式テニス 7/14、パークゴルフ 6/5、 グラウンドゴルフ 6/14、 バレーボール 8/25、輪投げ 6/29 以上 18 種目 補助金：180,000 円	・夏季総合体育大会については、例年通りの実施であったが、例年参加者数が減少してきていることから、開催内容の検討が必要である。

	○マラソン・駅伝のまちの推進 ・県高等学校駅伝 (219 千円) ・東北高校駅伝 (761 千円)	・県高等学校駅伝 開催日：10 月 26 日 負担金：200, 000 円 ・東北高校駅伝 開催日：11 月 7 日 委託料：450, 000 円 負担金：300, 000 円 ・第 64 回山形県縦断駅伝競走大会 開催日 4 月 27～29 日 総合 8 位（前年度第 8 位） ・第 36 回山形県女子駅伝競走大会 開催日 11 月 17 日 第 8 位 ・第 22 回山形県 Jr 駅伝競走大会 開催日 8 月 4 日 男子第 16 位、女子第 13 位 ・第 61 回西置賜地区駅伝競走大会 開催日 11 月 4 日 長井市チーム 第 2 位	・県高校参加チーム 男子：18チーム 女子：20チーム ・東北高校参加チーム 男子：27チーム 女子：28チーム
	○2020 東京オリンピック・パラリンピック事業の推進 ・オリンピック・タンザニア選手を長井マラソンに招待するなど、タンザニアとの交流や東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図る。 ・事前合宿等の招致活動	・第 33 回長井マラソン大会 開催日：10 月 20 日 委託料：9, 344, 000 円 参加者：1, 108 人（前年 887 人）	・東京オリンピック・パラリンピック・プレイベントを実施（タンザニアからランナーを招聘） ・特別ゲスト 宗茂氏、宇野けんたろう氏
③ トップレベルの選手に対する支援	○優秀選手の情報収集 ○適切な支援を実施	・長井市出身アスリート鈴木沙織選手及び渡部博文選手を支援、激励する取り組み	・競技に参加する人、支える人、応援する人、それぞれの役割で活躍できる取組を進めてきた。 ・メディア等による露出を高め、市民向けに広く周知できた。 ・寄贈品の常設展示

(5) 体育施設の充実

重 点	主 な 施 策	取組状況	評 価
① 体育施設に対するニーズに的確に対応し、効果的・効率的な管理運営を行います。	○指定管理者制度導入の検討	・関係者との意見交換会を開催。	・体育協会及び花のまちスポーツクラブを中心に準備委員会を設立し、受託に向けた組織体制及び定款等の整備を進めてきたが、契約に至っていない。
	○生涯学習プラザ施設管理事業 (41,969千円)	・一般管理経費 42,505,055 円 プラザ利用者数：126,371 人	・使用者数及び使用料集計（別掲） ・緊急的かつ優先的に必要な改修を実施。大規模な改修等については施設整備計画を策定し、その他の施設を含め計画的に実施していく。
	○プラザ運動公園施設管理事業 (17,754千円)	・一般管理経費 16,723,706 円 陸上競技場利用者数： 18,714 人 多目的広場利用者数：7,815 人 (※R2.1月末現在)	・夏の猛暑及び少雪の影響から芝生の生育状況が悪化し、今後の管理について検討中。 ・陸上競技場の改修工事の検討
	○その他体育施設管理運営 (4,054千円) ・市民体育館 ・学校体育施設開放事業 ・長井市野球場 ・あやめ公園多目的運動広場 ・あやめ公園テニスコート ・市民小出プール ・長井市パークゴルフ場 ・道照寺平スキー場 ・長井市武道館	・一般管理経費 4,588,804 円 ・テニスコートの改修が終了し、本格的に利用開始。 利用者数：9,303 人 利用期間：H31.4～R1.12 月 ・長井市野球場 利用者数：4,972 人 ・多目的運動広場 利用者数：5,650 人 ・市民小出プールの開設 利用者数：2,397 人	・上記以外のスポーツ施設において使用手続きや使用上の注意点等の使用調整を実施。 ・定期的なメンテナンスの実施 ・年度末に使用調整会議を実施し、大会や定期練習等の日程を調整。 ・各施設にて利用者による環境整備を実施。 ・管理人及び監視員の人員確保が難しくなっている。

		・パークゴルフ場の開設 指定管理料：1,103,200 円 指定管理者：のがわクラブ 利用者数：7,769 人	・定期的に芝生の張替を実施。 ・自主事業による利用者数の増加。 ・指定管理期間が満了し、継続して現事業者が受託した。
		・道照寺平スキー場の開設 12月30日～3月8日 運営委託料：2,600,000 円 利用者数：0 人	・圧雪車及びリフトの定期点検を実施し安全運行を確認。 ・少雪の影響から営業実績なし。
		・武道館、各市民体育館、三吉公園の開設	・各施設共に管理を委託し、適切に運営いただいている。
② 施設の改修及び老朽化した施設の長寿命化を図ります。 ・安全で安心して利用できる体育施設の整備	○その他体育施設管理運営事業 大規模改修 (726 千円) ○生涯学習プラザ施設管理事業 大規模改修 (1,030 千円)	・その他体育施設 大規模改修修繕料 529,200 円 ・生涯学習プラザ改修状況 大規模改修費 5,547,900 円 (主な修繕等) 非常用放送設備アンテナ交換工事 3,410,000 円 プール天井ダクト設備修繕 1,342,000 円 プラザ自動火災報知設備修繕 507,600 円 ホール移動式観覧席保守点検 226,050 円	・緊急的かつ優先的に必要な施設及び設備改修を実施。 ・長期的な施設の改修計画の策定が必要。

【 令和元年度（平成 31 年度） 置賜生涯学習プラザ利用者数 】

月	学習棟	体育館棟	プール (一般)	プール (スクール)	合計	前年度	前年度比
4月	3,292	1,726	438	2,630	8,086	7,991	95
5月	3,893	5,708	359	2,447	12,407	9,677	2,730
6月	4,556	4,481	584	2,944	12,565	11,928	637
7月	5,683	3,793	706	2,497	12,679	10,054	2,625
8月	3,249	2,208	729	2,496	8,682	8,210	472
9月	6,100	3,676	654	2,479	12,909	11,240	1,669
10月	6,363	6,829	314	2,168	15,674	12,945	2,729
11月	6,353	4,870	598	2,749	14,570	9,513	5,057
12月	3,695	2,192	531	2,611	9,029	8,275	754
1月	2,348	3,053	433	1,957	7,791	7,692	99
2月	3,875	2,361	487	2,394	9,117	8,063	1,054
3月	2,398	244	200	20	2,862	7,339	△ 4,477
合計	51,805	41,141	6,033	27,392	126,371	112,927	13,444

【 令和元年度（平成 31 年度） 置賜生涯学習プラザ使用料 】

月	学習棟	体育館棟	プール (一般)	プール (スクール)	合計	前年度	前年比
4月	172,009	20,600	96,270	345,625	634,504	647,569	-13,065
5月	153,027	70,670	109,640	324,625	657,962	658,032	-70
6月	162,617	47,650	82,240	389,500	682,007	702,420	-20,413
7月	159,325	91,530	102,750	335,125	688,730	692,746	-4,016
8月	170,262	108,000	149,020	335,000	762,282	756,670	5,612
9月	119,866	79,060	151,300	332,125	682,351	655,204	27,147
10月	106,540	88,010	99,850	300,820	595,220	642,196	-46,976
11月	139,120	53,020	78,420	379,860	650,420	583,765	66,655
12月	145,977	88,080	126,480	363,740	724,277	604,855	119,422
1月	54,767	70,050	72,820	271,180	468,817	529,192	-60,375
2月	51,577	130,130	74,170	326,950	582,827	634,225	-51,398
3月	35,057	59,130	63,150	3,320	160,657	511,815	-351,158
合計	1,470,144	905,930	1,206,110	3,707,870	7,290,054	7,618,689	-328,635